

## リュッツォホルム湾沖における海底圧力計観測値と海洋潮汐モデルの比較

## Comparison of tidal signals between ocean bottom pressure data and ocean tide models off Lutzow-Holm Bay

# 青山 雄一 [1]; 土井 浩一郎 [1]; 野木 義史 [1]; 渋谷 和雄 [1]; 石川 尚人 [2]

# Yuichi Aoyama[1]; Koichiro Doi[1]; Yoshifumi Nogi[1]; Kazuo Shibuya[1]; Naoto Ishikawa[2]

[1] 極地研; [2] 京大・人間環境

[1] NIPR; [2] Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto Univ.

南極観測において、南極海における海洋質量分布の季節変化、年周変化などの検出、海洋潮汐モデル改良に向けた基礎データの提供、ならびに衛星重力ミッション (GRACE) データの検証を目的として、海底圧力計による連続観測を実施している。第46次南極地域観測隊の往路でリュッツォ・ホルム湾沖、北方約200kmの海底(水深約4500m)に海底圧力計を設置し、第47次南極地域観測隊の復路で回収するまでの約1.2年間の連続データ(1分間隔値)が取得された。60日以上の上の長周期帯における非潮汐成分については、既に衛星重力ミッション GRACE データとの比較を行ってきたが、今回は、このデータを潮汐解析し、半日から半年周期までの主要分潮において、既存の海洋潮汐モデル (NAO.99.b, GOT.2b, CSR4.0, FES2004 等) と比較した。この解析結果について報告する。